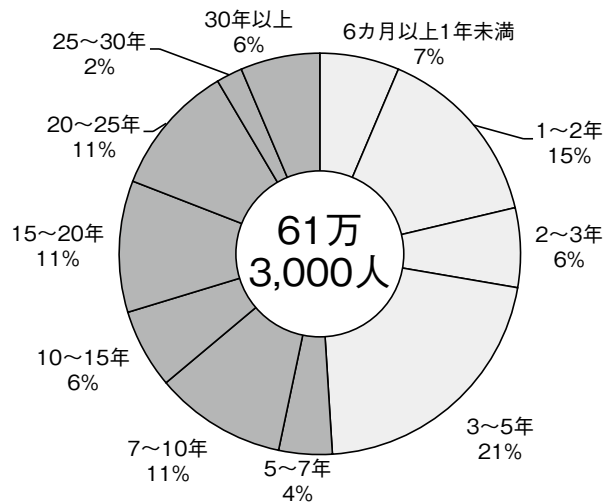


中高年（40～64 歳）のひきこもり



内閣府は、自宅にいてほとんど他者との交流をもたない40～64歳の中高年のひきこもりが61万3,000人いるとの推計を公表した。これは54万1,000人いると推計された15～39歳までのひきこもりの推計(2015年)よりも多い。ひきこもりの期間は「5年以上」が半数を超え、「30年以上」の長期間に及んでいる者もいた。ひきこもりの高齢化・長期化が明らかとなったかたちだ。ひきこもったきっかけ(複数回答可)は、「退職」、「人間関係」、「病気」、「職場になじめなかった」の順となっており、就職氷河期を経て不安定な就労状態にあったことも要因と指摘されている。年老いた親との同居や、生活費が親の年金であるケースもあり、地域ぐるみのきめ細やかな支援が求められる。

内閣府：「生活状況に関する調査（平成30年度）」より